



JA就農支援センター第5期生卒業

1年間の研修を終え準備万端！研修生7人が就農へ

JAは、自己改革の基本目標の1つの「農業生産の拡大」に向けた事業の一環として、JA管内で就農を目指す新規就農希望者を受け入れ、JA就農支援センターで農業実習や座学など1年間の栽培研修を実施し、優れた担い手の育成と地域農業基盤の維持発展に向けて取り組んでいます。

6月1日、1年間の研修を修了した第5期生7人が退所式を終え、卒業しました。

第5期卒業生はイチゴ生産者となる室園周作さん、室園桜さん、豊福一郎さん、田代広樹さん、塚本康博さんの5人とトマト生産者となる今村達典さん、川村晃矢さんの2人です。

卒業生7人は、それぞれJA幹旋の遊休ハウス等を活用し、管内で就農しています。

卒業生の1人、塚本康博さんは「この1年間の研修は天候との戦いだった。大雨で畑が水没したり台風でハウスが倒壊したりで大変だったが、そのおかげでトラブルに対応するスキルを習得できた。被害を最小限に抑える対策やリカバリーを実際に経験できたことは今後の農業人生に必ず生きると思う。センター卒業生の先輩方は皆さん就農後も優秀な成績を残しているの、私たちも1目でも早く先輩方に肩を並べられるよう農業に励んでいきたい」と力強く話していました。



鶏木組合長

今年は、トラブルの多い年だったが、その分、研修生の皆さんにとっては、学びの多い年だったと思う。就農支援センターでの経験を生かし、農業に励んでほしい。



1年間の研修では、育苗、土づくり(肥料の知識習得)、定植、栽培、収穫、農機の使い方など、農業の基礎と年間通しての栽培管理について学んだ第5期生